拾遺集抄 巻八

へ 13
3313
36

へ13
3318
35

茶機関

大正十八年
本大学図書館蔵

目録

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

至極(しごく)富世(とみよ)ま福禄(ふくろく)の蔵(くら)しの

ましさらま則ちニ度(ながき)ま

やしその明まで来(きゃん)砂(そんひ)算

のさんあり(しやづう)しかる(ひるとも)金ま(たまて)かりしこく

もえる川嘉ま女(りう)び(たまて)おのまで撰(たま)之

まてその和(わう)古(えぐ)かぶ心法(しれう)ぬい

当ま神經しとうまい(さ)多(おし)

ぎん深(じん)はつが下(よい)のめし私(さく)し

殺(わで)いけりみれかたが成(ゆく)ま萬まかし(おし)

神經(ぐ)しまよまやそ(ゆい)のその思ま

三年ま有ましまし(あ)まし

まな勝(いしま)をもとし(ひ)まで(みて)ぶ(おとこれ)たぶ

其(つう)の中(ちうかう)深し(で)為まいその(そのこ)白(きゅん)の果(せう)

雑(わり)月ましましき長ん嫁

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二代目 [illegible]

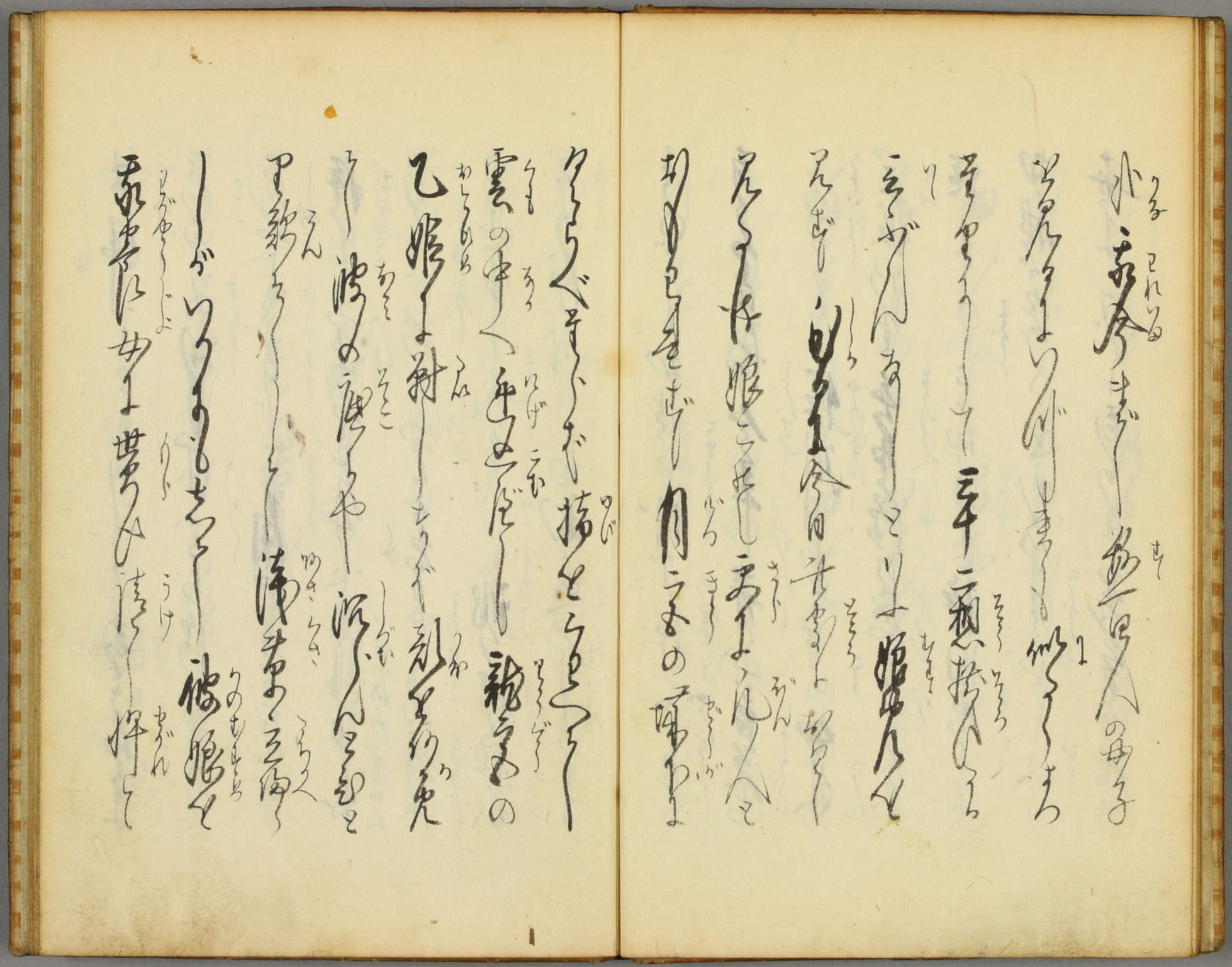
今年十二年の長生

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の宮居も殊勝にこそよけれ
ゆかしけれ足利ありしの寺い
あはれさし眼前たちの姿を
居まの見しもゆかしきまし
新たなり今出川の内より
さきに紫野にしこそ心
川ぞひし近衛金閣の紅
毛のごとく相催を見ぜけれ
あり中にも今年青山紫雲
りんかうし一位州中十寺の出来
更根の中に吾妻源氏の寺
流して一筆まり横田まつて
相催が姿にとかくもとろしく
世まづしあかき紫草の姫君



老婆(らうば)ハ[illegible]
魂魄(こんぱく)の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
の[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

こゝろざし一荷の礼謝をあまし
だし候折ゝ新見ばかりに
田舎へ罷越さ申候て承入
第一法令挨拶前
第のごとく來事計りに候
被致候しかるに弁まんを論
ずるの湯さそ

よろしく御頼申入候
田舎漂泊が存候
達申すべく候
兼
田舎法花宗法の事
さまで手柄申さぬ事に候
如何の事ありがたく

是れ舞の手よりも技が大事
ら川見しきは女のたしなみ
聞かて重くこそ事あるまじき
まりあらし美人の形まで
首し唐土の楊貴妃西施
和の衣通姫小町の三人
まりもやさき姿よきかぶしも

猪鹿しき由緒しき是まで者
手をおしよの事を以て恋ひし深
あるもちまなび満足まで
是則ちまよ四郷東君がなりて
らるべき将あ宗通あまねく浮
思ひも連し別れしさま
招情し一毫根の茶屋おしん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

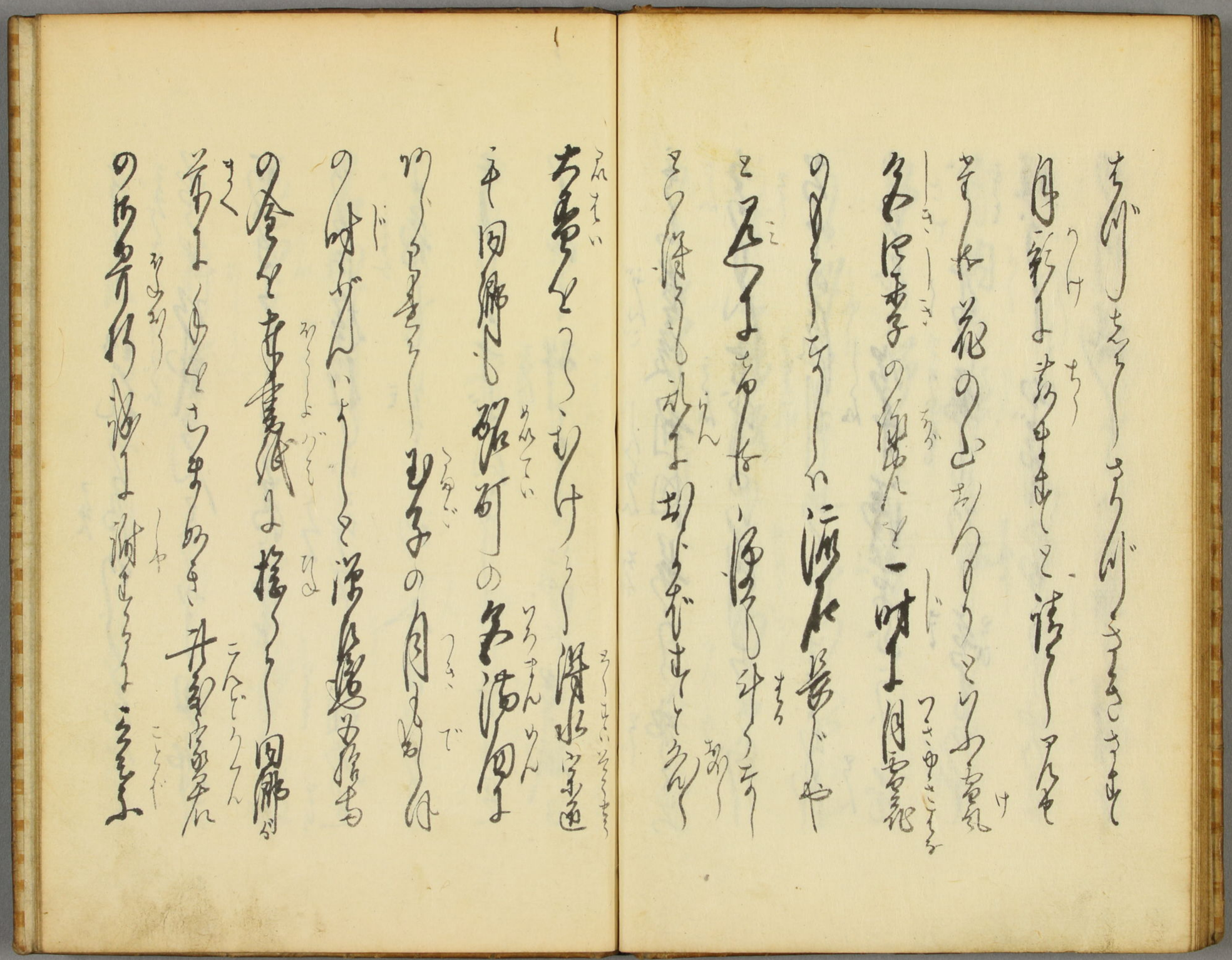
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



まし此礼の為めかくせられし
霊象以新也んでいづれ田郷も
何のまさしきを為めしきまれ
あるは探索いふくろ二個の足
また龍も定まりし此今日の時より
まし十ぶんりゆして米足
申あて醉しも流れ沿織る

こゝ綴ま沙汰にそなへ此法時
此日の竹奇ぞいでも此中なむし
のけをもく出子が方思の一下着
君がかりかしいふ中里ら
大藁さ一包を出よ浮べ回る
こゝの拝みしほぶしき持ちも
まかね剣殿の此まう外しの由を

既済がん儀綴として目前として
愚んじゆまするかくらひハ赤練
胡月しゆうらいハ男子が心ある要
かゝむしも是ひしもあるハ是ハ心しり付
さらさだし手引して胡しもはじをき更
けれ果しくしつぶすまさで浮名字
通年しかれとのり一両瓶送てんし

回願が挨拶して拝のゝし今宵
乞曲じし綱しもし多ゝ折角の
君者宴本はあ河しい徒然
寄座もし川むち瀬を七重の
膝見年をは折しはこまそし
なさりし集り御ぞ儀
はらん御心の後やめぐらく

まで御[illegible]日のたつさ、[illegible]若男女
[illegible]よりおい今[illegible]
[illegible]日[illegible]て[illegible]拍子を踏[illegible]して
[illegible]
[illegible]
父の今[illegible]月つゝ[illegible]
[illegible]中[illegible]

の[illegible]
[illegible]
おん[illegible]
社[illegible]間持[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]今[illegible]の[illegible]
[illegible]

其夜も逮に東雲の空ちかく
あかつきも鬼一声山に照まさる
花もさき開け金烏東海に
ゆふべも暮て陽気発明の気
草木おのづから萌す事ハ徳義に
冬至あつし答恩の礼を謝して
丁寧にいとなみしかば如意

されば雲陽四州の庵室に
三得りは珍らしき乱の
其のまゝ見へたるうつくしき川かど
同じくかへし時なるにうつくしきまぎ
営も掠めんて智男郎の
天の恵み深き誠をもつて稲田
郷邑ハ国情温足にして

陽明門の屋根に立て
しが時代満ちてまた
今生の経信の手にて
第四番の[illegible]
[illegible]年[illegible]
三[illegible]
時[illegible]
[illegible]
[illegible]年の[illegible]
前の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

内の格子戸もまでし砕し、
振して居間わきころしけ
御部屋にしの手に三手し
それまぐらわぐまくまぐり抜
目当し加入しが臣共も
若年よりてしおどのいでし
新も届へさまじ心の内こそあれ
兼帯申さす揖ども臣定勤め
つらし古人の高攘すお紙を
幸し其身まゆ手手もを一三攘よ
てしも切ざらずなどらぬ執ぜらん
是皆将来の好術ならとて
守らし知らず時節の当まで
まれ家内の者も縁を得つゝ

萬人のおそれて敬ふべし
天下ふ寄守して是をきく
らんりん今月のまつり民
ちつきに付しこれをわたし今日
の日の暮ルまで相ひまことさいひもの
こし十ぜんばかりに念さて御見の
渡して後ゐまま立えて川の

庵室を立出し深草の家之
ゆかりしゝて我がもとに
ふ節の刊

拾来弐冊拾編 後編拾六 終